

厳冬の海での灯浮標交換作業

船が安全に航海できるよう岬や島などに設置される色々な灯台。

その中に、船の道筋である航路を示すため海上に浮かべられた『灯浮標』と呼ばれる航路標識があります。これらは、今治海上保安部管内の来島海峡や燧灘だけでも24基あり日々、通航船舶の道標として雨の日も風の日も安全な航海を見守っています。

しかし、この灯浮標は長期間海に浮かんでいるため、錆びたり、海鳥達に糞を落とされたり、時として船に衝突され損傷を受ける場合もあり、定期的に陸揚げして修理や点検を行うことが必要です。

12月17日、北風が吹き荒ぶ中、瀬戸内海燧灘にあるバンダイ磯灯浮標及び備後灘航路第一号灯浮標の交換作業を行いましたので、その時の様子を紹介します。





交換前のバンダイ磯灯浮標

浮体部の白い物は鳥の糞です。ぎんが甲板上に交換のための新しい灯浮標が見えます。



設標船に引き揚げられる古い灯浮標

浮体の下に垂れ下がって見えるチェーンをおもりにつなぎ固定されていました。交換した古い灯浮標はこのあと広島にある浮標基地に搬入し整備されます。



交換されたバンダイ磯灯浮標



備後灘航路第一号灯浮標交換の様子

ぎんがから新しい灯浮標を投入。左は回収されるこれまでの灯浮標です。



交換された備後灘航路第一号灯浮標

交換が完了すれば灯火の点灯確認等々の綿密な最終チェックを行い作業終了です。
当日は、折しも冬型の気圧配置が強まり、海上では北寄りの風が強く、時折1.5m以上の波が押し寄せるという、寒さと動揺の中での厳しい作業となりました。



航海者の皆様へお願い

灯浮標は船舶の安全航行にかかせない大事な道標です。
航海中は見張りを厳重に行い、これら灯浮標に衝突して損傷させることがないように十分な注意をお願いいたします。
また、灯火の消灯、その他異常を認めた場合には海上保安庁へ速報をお願いいたします。

